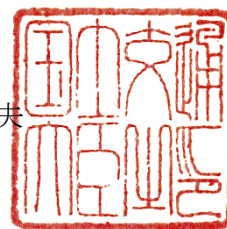


認 定 書

国住参建第 2115 号
令和 6 年 9 月 30 日

旭化成建材株式会社
代表取締役社長 山越 保正 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二並びに同法施行令第 107 条の 2 第二号及び第三号（外壁（非耐力壁）：各 45 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QF045NE-0075
2. 認定をした構造方法等の名称
鋼板・フェノールフォーム板・せっこうボード表張／せっこうボード重裏張
／軽量鉄骨下地外壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

鋼板・フェノールフォーム板・せっこうボード表張／せっこうボード重裏張／軽量鉄骨下地外壁

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

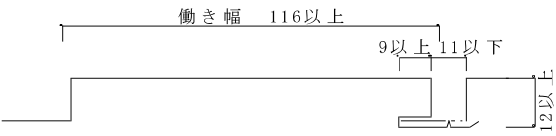
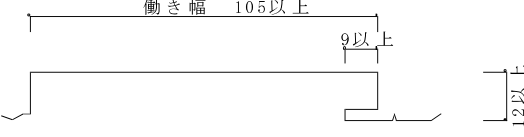
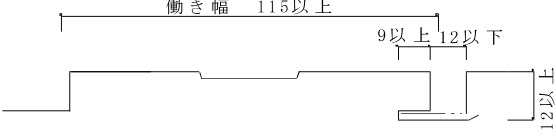
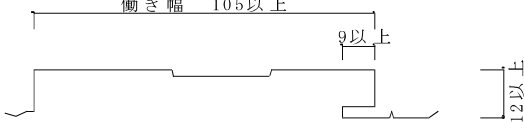
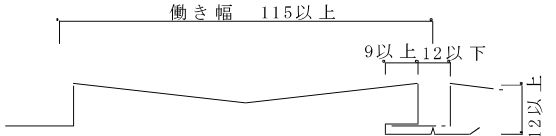
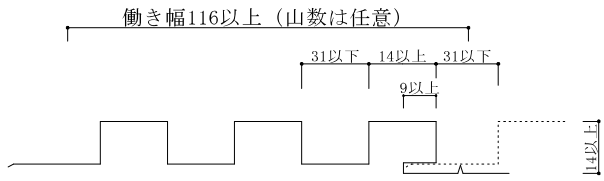
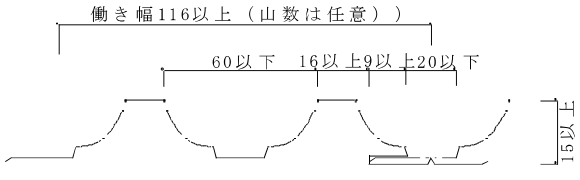
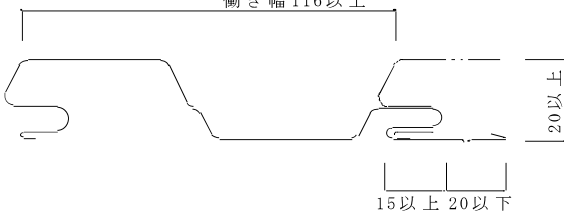
項 目	仕 様
壁 高	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする
壁 厚	171.5以上

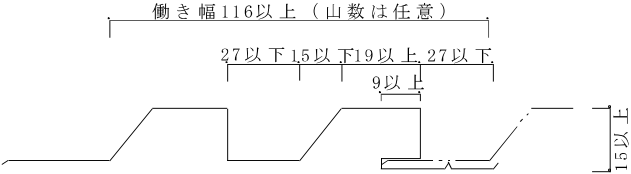
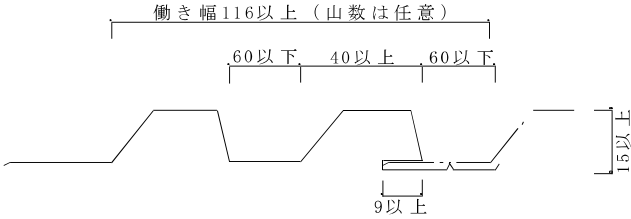
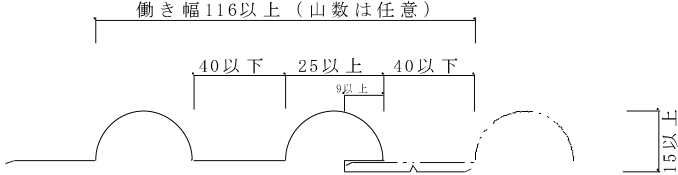
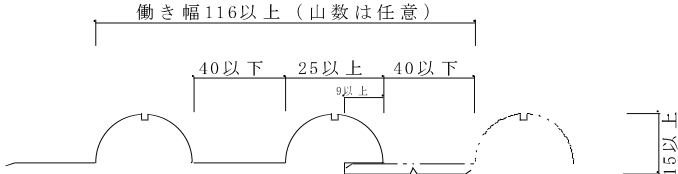
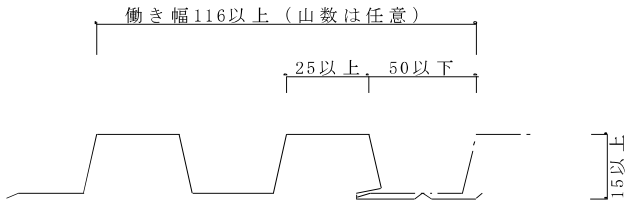
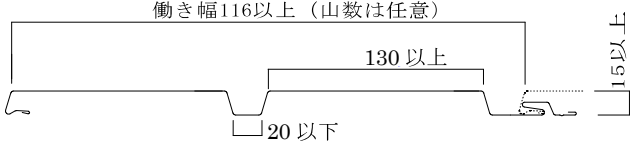
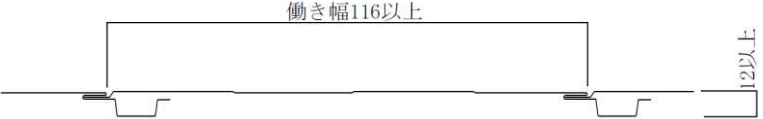
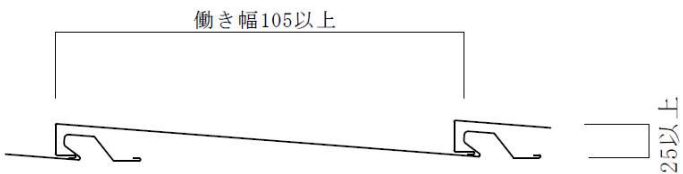
3. 材料構成

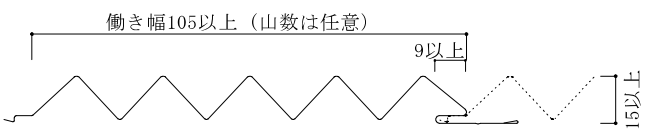
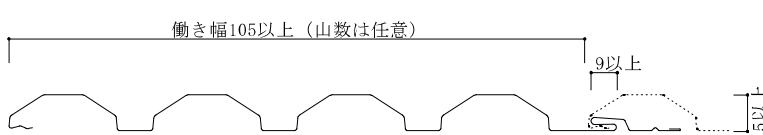
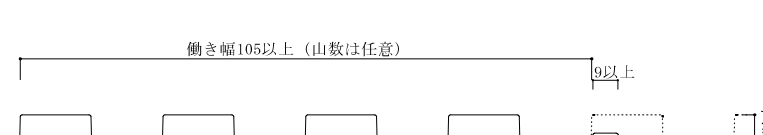

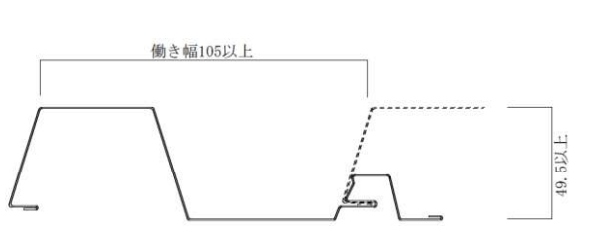
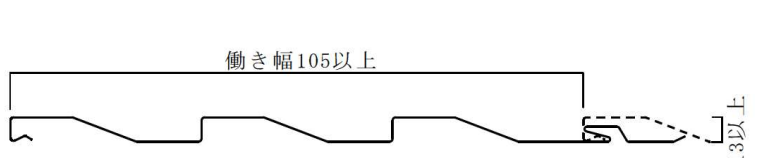

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
□ 胴縁	<p>[1]一般部 一般構造用軽量形鋼 ・規 格 JIS G 3350 ・寸 法 □-100×50×20×2.3 の断面寸法以上</p> <p>[2]下地材目地部 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)一般構造用軽量形鋼 ・規 格 JIS G 3350 ・寸 法 □-100×50×20×2.3 の断面寸法以上を 2 本使用 (2)一般構造用角形鋼管 ・規 格 JIS G 3466 ・寸 法 □-100×100×2.3 の断面寸法以上 ・相互間隔 910 以下</p>

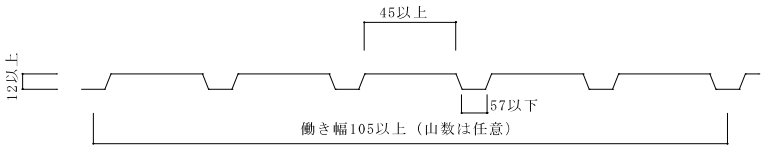
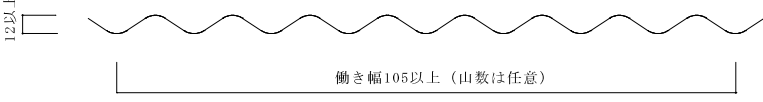
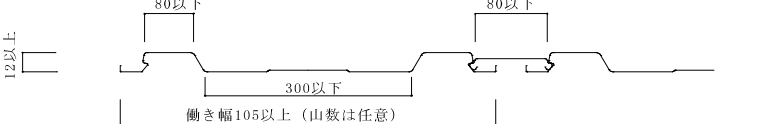
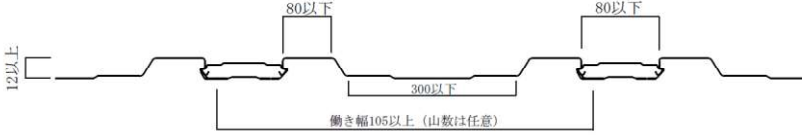
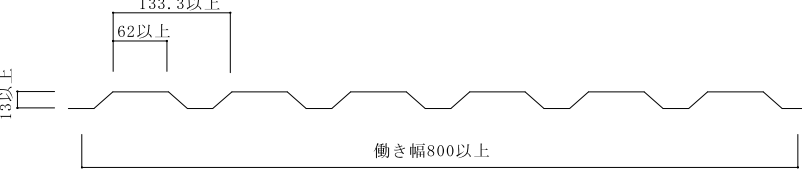
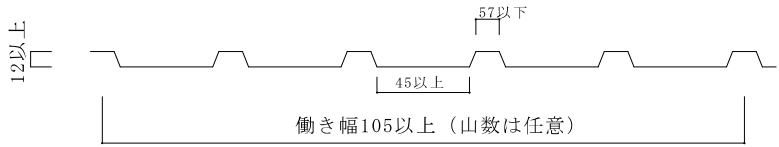
項 目	仕 様
② 外装材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 金属板 (留付けビスが露出しないもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚 さ 0.4 以上(ただし、形状 12)、14)、16)、18)、20)、22)、23)は 0.5 以上、形状 13)は 0.6 以上とする) ・働 き 幅 105 以上 (留付間隔 375 以下) ・山 高 さ 12 以上 ・形 状 1)～23)のうち、いずれか一仕様とする (金属板断面積：6.1cm²/m 以上) (各辺部にリブ入りも可とする) <p>1) </p> <p>2) </p> <p>3) </p> <p>4) </p> <p>5) </p> <p>6) </p> <p>7) </p> <p>8) </p>

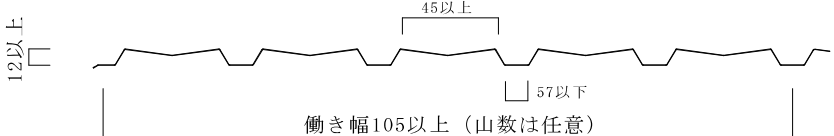
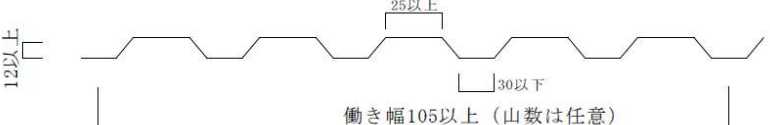
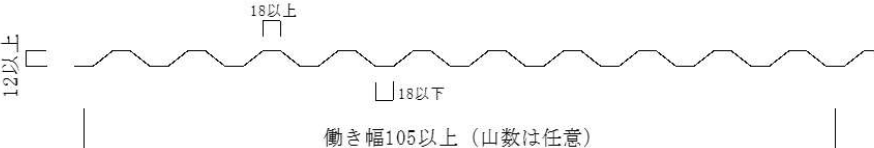
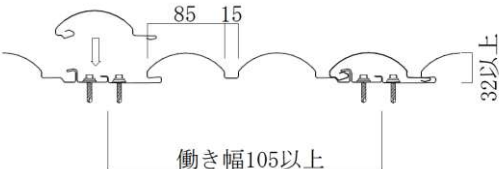
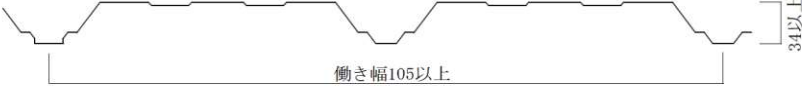

項 目	仕 様
2) 外装材(つづき)	<p>9) </p> <p>10) </p> <p>11) </p> <p>12) </p> <p>13) </p> <p>14) </p> <p>15) </p> <p>16) </p>

項目	仕様
2) 外装材(つづき)	<p>17)</p>  <p>働き幅105以上 (山数は任意)</p> <p>9以上</p> <p>15以上</p> <p>18)</p>  <p>働き幅105以上 (山数は任意)</p> <p>9以上</p> <p>15以上</p> <p>19)</p>  <p>働き幅105以上 (山数は任意)</p> <p>9以上</p> <p>15以上</p> <p>20)</p>  <p>働き幅116以上</p> <p>33以上</p> <p>21)</p>  <p>働き幅105以上</p> <p>49.5以上</p> <p>22)</p>  <p>働き幅 105以上</p> <p>13以上</p> <p>23)</p>  <p>働き幅116以上</p> <p>34以上</p>

項 目	仕 様
② 外装材(つづき)	<p>・材 質 1)～19)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1) 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-8697)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3322 ・塗 装 ｲ)～ﾌ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> ｲ) ポリエステル系樹脂 ﾚ) アクリル系樹脂 ﾊ) シリコン系樹脂 ﾆ) アミノ・アルキド系樹脂 ﾎ) 塩化ビニル系樹脂 ﾊﾞ) フッ素系樹脂 ﾄ) エポキシ系樹脂 ㇏) ウレタン系樹脂 ・塗布量 65g/m² (有機質量) 以下 <p>2) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-8697)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3312 ・塗 装 1)と同じ ・塗布量 1)と同じ <p>3) 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3321 <p>4) 溶融亜鉛めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3302 <p>5) 塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板 (国土交通省大臣認定番号：NM-8674～8696) (金属板は鋼板に限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS K 6744 ・表面材 塩化ビニルフィルム ・膜厚さ 0.1 以下 <p>6) 高耐候性圧延鋼材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3125 ・塗 装 ｲ)、ﾚ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> ｲ) エポキシ系樹脂 ﾚ) ウレタン系樹脂 ・塗布量 65g/m² (有機質量) 以下 <p>7) 両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-1863)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗 装 ポリエステル系樹脂 ・塗布量 10.25g/m² (有機質量) 以下 <p>8) フェライト系ステンレス鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 4304、JIS G 4305 <p>9) 塗装ステンレス鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-8316～8326) (オーステナイト系ステンレス鋼板を除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3320、JIS G 4305 ・塗 装 1)と同じ ・塗布量 1)と同じ <p>10) 金属板・合成樹脂塗装鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-3238) (めっき鋼板、フェライト系又はマルテンサイト系ステンレス鋼板に限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 1)と同じ

項 目	仕 様
② 外装材(つづき)	<p>11) 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3318 ・塗 装 1)と同じ ・塗布量 1)と同じ <p>12) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3317 <p>13) 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3323 <p>14) 電気亜鉛めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3313 <p>15) 耐熱鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 4312 <p>16) チタン展伸材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS H 4600 <p>17) 両面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-9584)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗 装 表面 下塗り エポキシ系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">上塗り ポリエステル系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">裏面 下塗り エポキシ系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">上塗り ポリエステル系樹脂 ・塗布量 1)と同じ <p>18) フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-9662)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗 装 表面 下塗り エポキシ系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">上塗り フッ素系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">裏面 下塗り エポキシ系樹脂 <li style="padding-left: 100px;">上塗り ポリエステル系樹脂 ・塗布量 1)と同じ <p>19) 塗装/亜鉛めっき鋼板 (国土交通省大臣認定番号：NM-8697)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗 装 1)と同じ ・塗布量 1)と同じ

項 目	仕 様
2] 外装材(つづき)	<p>(2) 金属板 (留付けビスが露出するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚 さ 0.4 以上 ・働 き 幅 105 以上(ただし、形状 5)は 800 以上とする (留付間隔 375 以下) ・山 高 さ 12 以上 ・形 状 1)~12)のうち、いずれか一仕様とする (金属板断面積：4.3cm²/m 以上) (各辺部にリブ入りも可とする) <p>1)</p>  <p>2)</p>  <p>3)</p>  <p>4)</p>  <p>5)</p>  <p>6)</p> 

項 目	仕 様
2) 外装材(つづき)	7) 12以上  <p>45以上 57以下 働き幅105以上 (山数は任意)</p>
	8) 12以上  <p>25以上 30以下 働き幅105以上 (山数は任意)</p>
	9) 12以上  <p>18以上 18以下 働き幅105以上 (山数は任意)</p>
	10)  <p>85 15 32以上 働き幅105以上</p>
	11)  <p>34以上 働き幅105以上</p>
	12)  <p>33以上 働き幅105以上</p>
	・材 質 (1)金属板(留付けビスが露出しないもの)と同じ

項 目	仕 様								
③ 断熱材	フェノールフォーム <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) JIS A 9521 フェノールフォーム断熱材 (2) JIS A 9511 フェノールフォーム保温板 ・形 状 平板 ・厚 さ $25_{\pm 3} \sim 66_{\pm 7}$ ・密 度 $29_{\pm 3} \text{kg/m}^3$ (芯材) ・組 成 (質量%) <ul style="list-style-type: none"> (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) <table border="0" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)</td> <td style="text-align: right; padding-right: 10px;">100</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">発泡剤(炭化水素系)</td> <td style="text-align: right; padding-right: 10px;">$5_{\pm 2}$ (外割)</td> </tr> </table> (2) <table border="0" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)</td> <td style="text-align: right; padding-right: 10px;">100</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">発泡剤(炭化水素系と HFO の混合)</td> <td style="text-align: right; padding-right: 10px;">$10_{\pm 2}$ (外割)</td> </tr> </table> ※炭化水素系は $5_{\pm 2}$ (外割) 以下 ・面 材 (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) ポリエステル系不織布 <ul style="list-style-type: none"> ・使用量 $10_{\pm 1} \sim 30_{\pm 3} \text{g/m}^2$ (片面あたり) (2) ポリプロピレン系不織布 <ul style="list-style-type: none"> ・使用量 $10_{\pm 1} \sim 30_{\pm 3} \text{g/m}^2$ (片面あたり) (3) ポリエチレン加工紙 (JIS Z 1514) <ul style="list-style-type: none"> ・使用量 $10_{\pm 1} \sim 30_{\pm 3} \text{g/m}^2$ (片面あたり) (4) はり合せアルミニウムはく (JIS Z 1520) (5) 無機系の加工紙 (けい酸マグネシウム紙、ガラス繊維紙、アルミニウムはく・ガラス繊維複合紙) (6) なし 	フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)	100	発泡剤(炭化水素系)	$5_{\pm 2}$ (外割)	フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)	100	発泡剤(炭化水素系と HFO の混合)	$10_{\pm 2}$ (外割)
フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)	100								
発泡剤(炭化水素系)	$5_{\pm 2}$ (外割)								
フェノール系樹脂(レゾール系樹脂)	100								
発泡剤(炭化水素系と HFO の混合)	$10_{\pm 2}$ (外割)								
④ 下地材	せっこうボード (強化せっこうボード含む) <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS A 6901 ・厚 さ 12.5 以上 ・端部形状 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) スクエア (2) ベベル (3) テーパ 								
⑤ 内装材	せっこうボード (強化せっこうボード含む) <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS A 6901 ・厚 さ (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) 12.5 以上+9.5 以上重張 (2) 9.5 以上+12.5 以上重張 ・端部形状 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) スクエア (2) ベベル (3) テーパ 								

項 目	仕 様
[6] 内装材用 下地材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 建築用鋼製下地材 ・規格 JIS A 6517 ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 2) 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3321 ・種類 1)～4)のうち、いずれか一仕様または、1)と2)の組み合わせ、1)と2)と5)の組み合わせ、3)と4)の組み合わせのうち、いずれか一仕様とする 1) スタッド ・幅 50～100 ・高さ 45 ・厚さ 0.8 2) ランナ ・幅 52～102 ・高さ 40 ・厚さ 0.8 3) シングル野縁 ・幅 25 ・高さ 19～25 ・厚さ 0.5 4) ダブル野縁 ・幅 50 ・高さ 19～25 ・厚さ 0.5 5) 振れ止め ・幅 19～25 ・高さ 10 ・厚さ 1.2 (2) なし

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①防水紙	<p>(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)アスファルトフェルト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS A 6005 ・単位面積質量の呼び 430 以下 <p>(2)透湿防水シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS A 6111 ・厚 さ 0.2 以下 ・材 質 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> 1)ポリエチレン 2)ポリエステル 3)ポリプロピレン ・表面アルミニウム蒸着仕上げ <ol style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> 1)あり 2)なし <p>(3)防湿気密フィルム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> 1)住宅用プラスチック系防湿フィルム <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS A 6930 ・厚 さ 0.2 以下 2)ポリエチレン系フィルム <ul style="list-style-type: none"> ・厚 さ 0.2±0.02 以下 <p>(4)なし</p>
②接着剤 (下地材、 断熱材複合用)	<p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)酢酸ビニル系樹脂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 200g/m²(有機質量 106g/m²)以下 <p>(2)エポキシ系樹脂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 200g/m²(有機質量 106g/m²)以下 <p>(3)アクリル系両面テープ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基 材 ポリエチレン ・粘着剤 アクリル系樹脂 ・厚 さ 0.2 以下 ・使用量 粘着剤 106g/m²(有機質量 106g/m²)以下
③留付材	<p>[1]外装材固定用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 ドリルねじ又はタッピンねじ ・材 質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> (1)炭素鋼 (2)ステンレス鋼 ・寸 法 φ5 以上×L65 以上 ・間 隔 (高さ方向)935 以下、(幅方向)375 以下 ・パッキン材 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> 1)頭部キャップ亜鉛めっき鋼板、座金部 EPDM またはシリコン製 <ul style="list-style-type: none"> ・座金部厚さ 2.5±0.25 以下 2)頭部キャップステンレス製、座金部 EPDM またはシリコン製 <ul style="list-style-type: none"> ・座金部厚さ 2.5±0.25 以下 3)なし

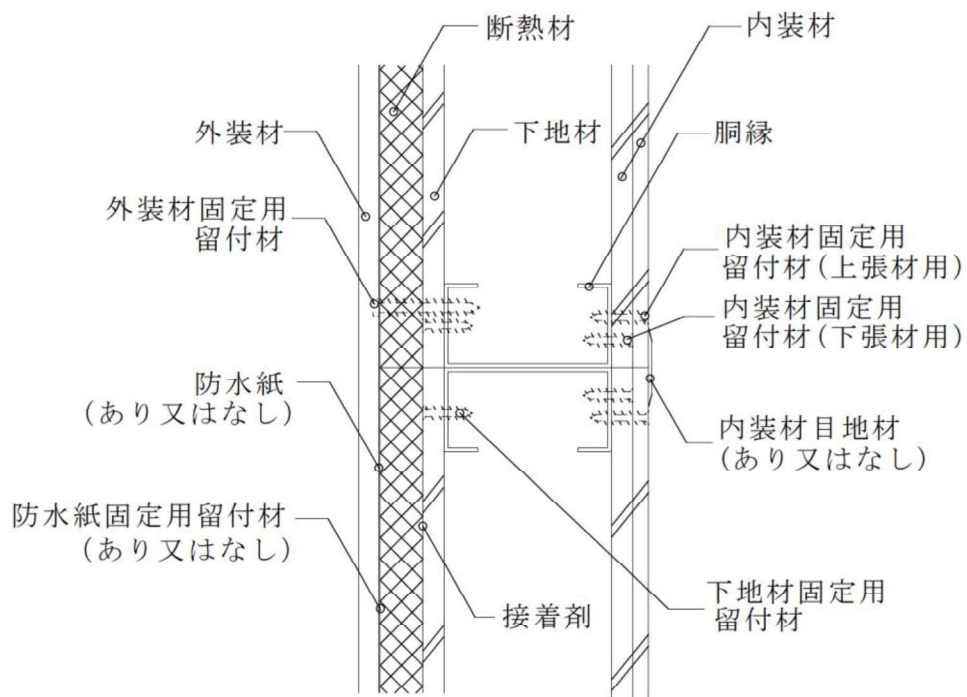
項 目	仕 様
③留付材(つづき)	<p>[2]下地材固定用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 ドリルねじ又はタッピンねじ ・材 質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1)炭素鋼 (2)ステンレス鋼 ・寸 法 $\phi 3.5$ 以上×L25 以上 ・間 隔 (高さ方向)910 以下、(幅方向)910 以下 <p>[3]内装材固定用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 ドリルねじ又はタッピンねじ ・材 質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1)炭素鋼 (2)ステンレス鋼 ・寸 法 (下張材用) $\phi 3.5$ 以上×L25 以上 (上張材用) $\phi 4.0$ 以上×L40 以上 ・間 隔 (高さ方向)910 以下、(幅方向)300 以下 ※内装材用下地材を使用する場合 (高さ方向)300 以下、(幅方向)900 以下 <p>[4]防水紙固定用</p> <p>(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)粘着テープ (片面・両面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材 質 1)～7)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)ブチルゴム系 2)EPDM ゴム系 3)アクリル系 4)アスファルト系 5)ポリエチレン系 6)ポリエステル系 7)ポリプロピレン系 ・厚 さ 1.0 以下 ・幅 100 以下 <p>(2)合成ゴム系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 $200\text{g}/\text{m}^2$ (有機質量) 以下 <p>(3)ウレタン系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 $200\text{g}/\text{m}^2$ (有機質量) 以下 <p>(4)変成シリコン系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗布量 $200\text{g}/\text{m}^2$ (有機質量) 以下 <p>(5)なし</p> <p>[5]内装材用下地材固定用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)ドリルねじ又はタッピンねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材 質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)炭素鋼 2)ステンレス鋼 ・寸 法 $\phi 3.5$ 以上×L25 以上 ・間 隔 910 以下 <p>(2)なし</p>

(寸法単位：mm)

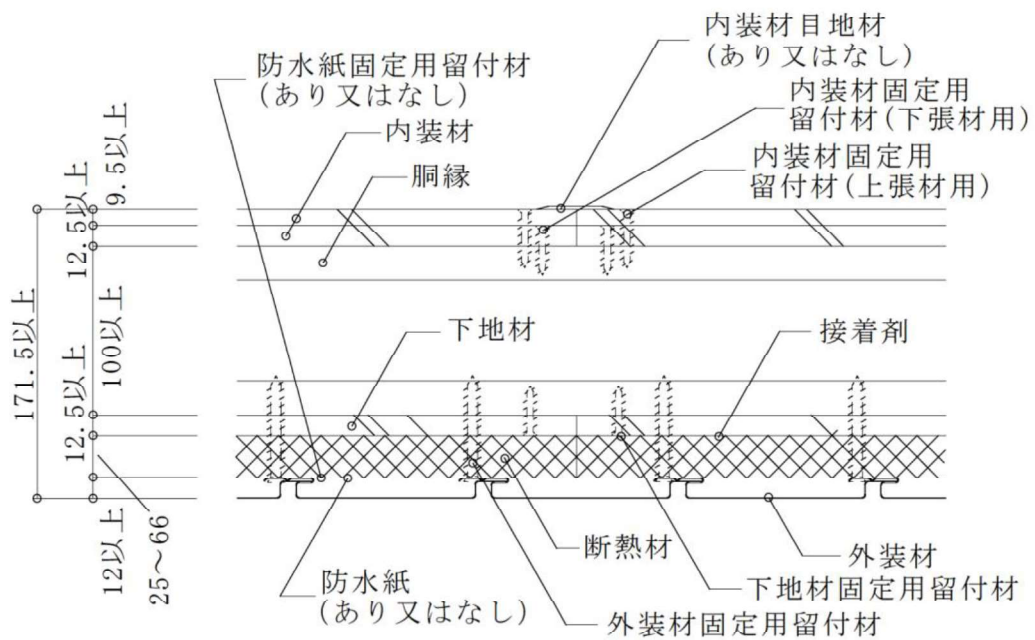
項 目	仕 様
④内装材目地材	(1)、(2)または(2)と(3)の組み合わせのうち、いずれか一仕様とする (1)なし (2)せっこうボード用目地処理材 ・使用量 50g/m以上 (3)ガラスファイバーテープ ・厚さ 0.13以上 ・幅 35以上
⑤スタッド用 スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)あり ・材 質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3302 2)溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3321 ・厚 さ 0.4以上 (2)なし

4. 構造説明図

1) 金属板（留付けビスが露出しないもの）（内装材用下地材なし）



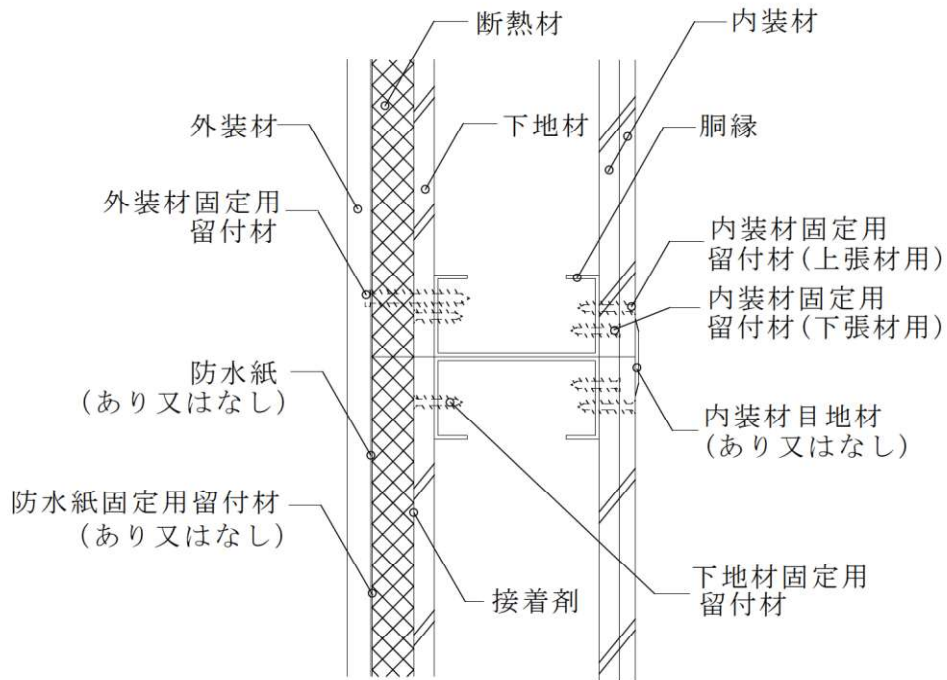
鉛直断面図



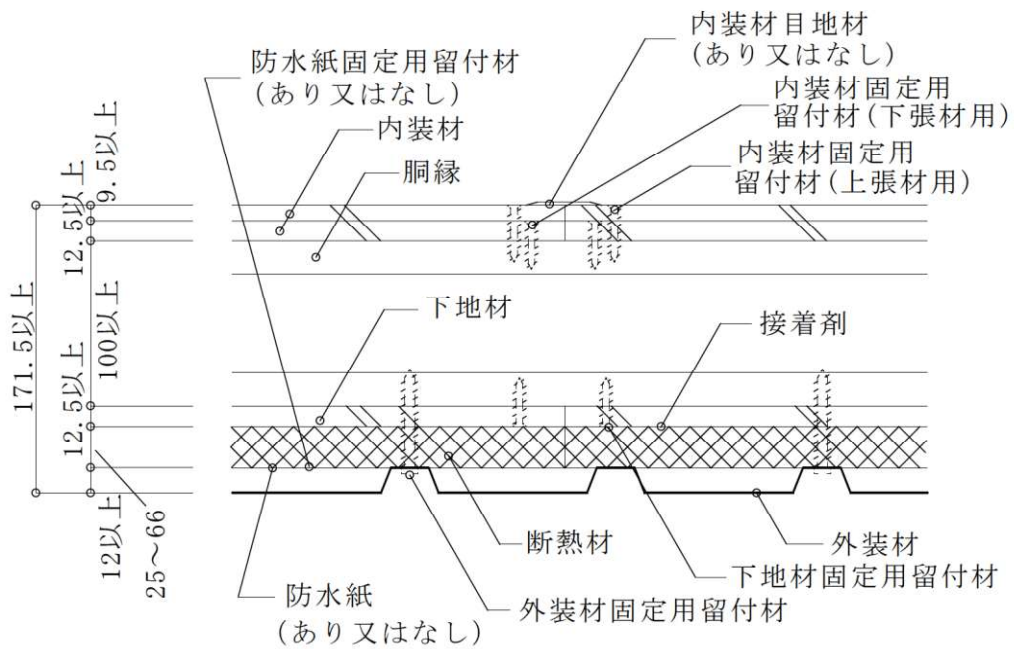
水平断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

2) 金属板（留付けビスが露出するもの）（内装材用下地材なし）



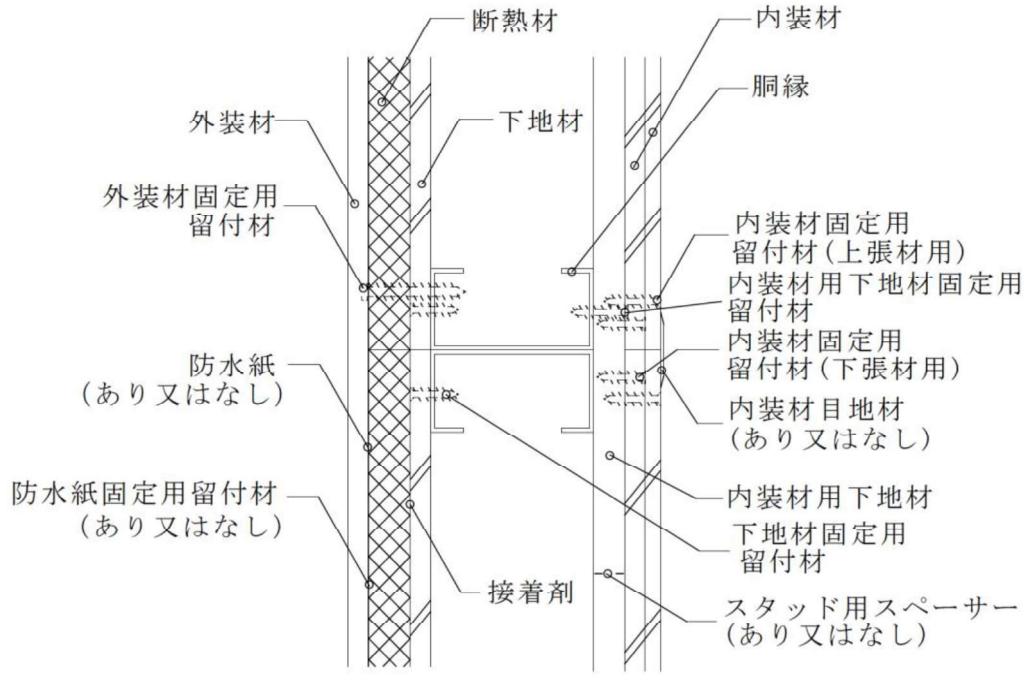
鉛直断面図



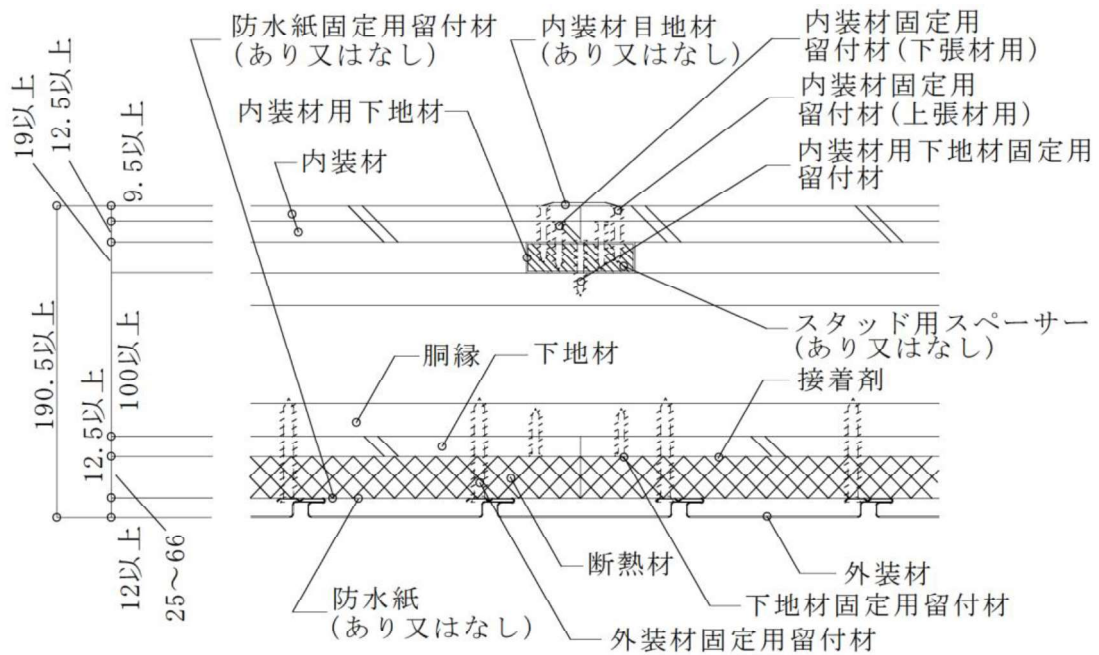
水平断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

3) 金属板（留付けビスが露出しないもの）（内装材用下地材あり）



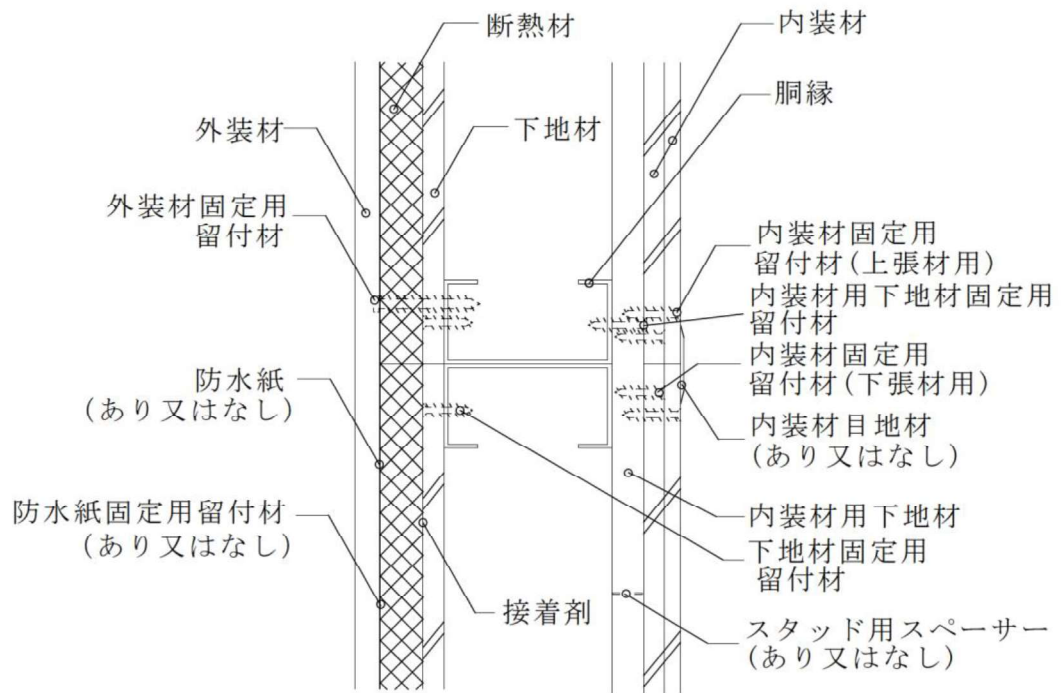
鉛直断面図



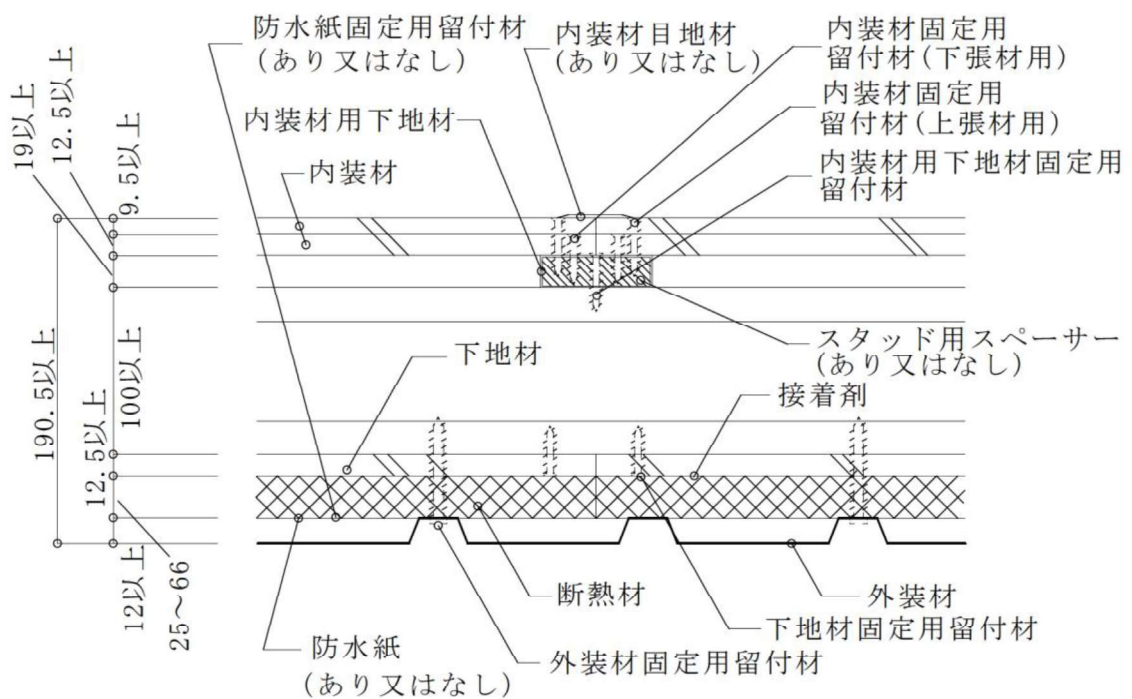
水平断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

4) 金属板（留付けビスが露出するもの）（内装材用下地材あり）



鉛直断面図



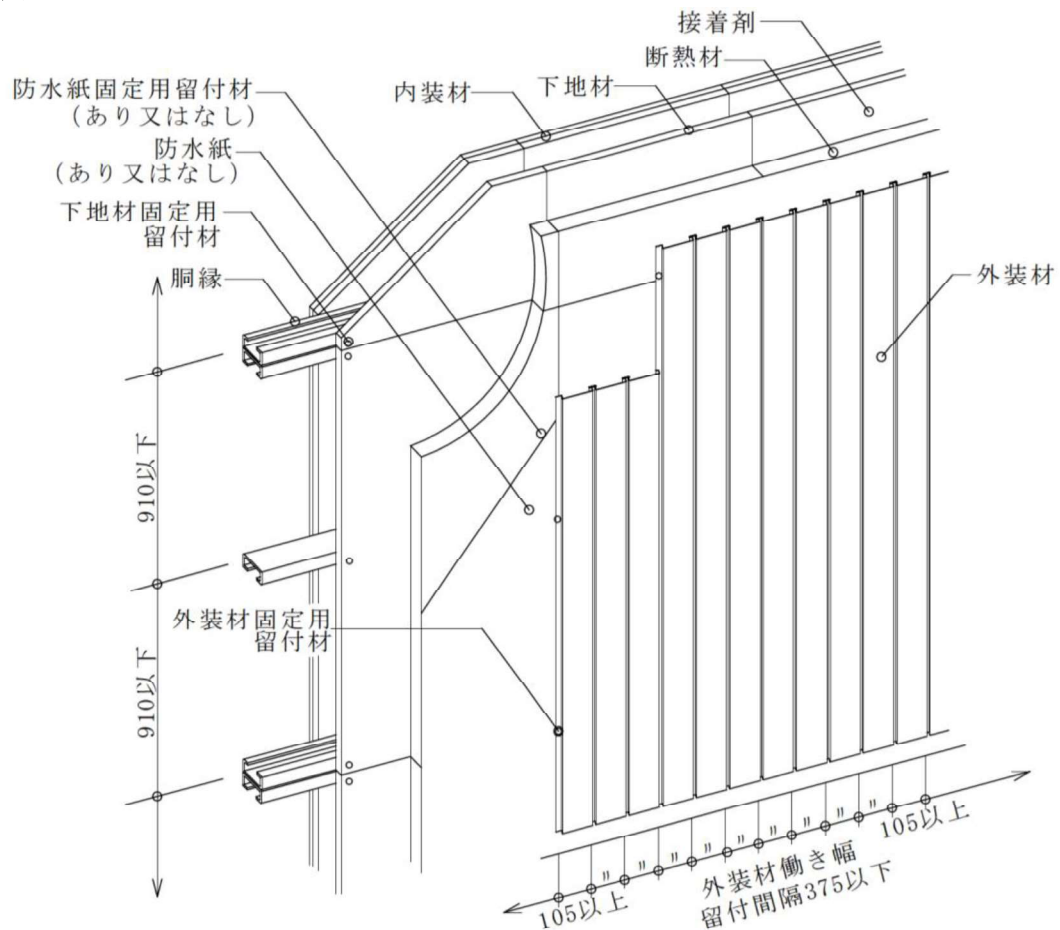
水平断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

1) 金属板（留付けビスが露出しないもの）（内装材用下地材なし）

<施工図>



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

<施工手順>

①下地組

- ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は910以下とする。

②下地材及び断熱材の複合板の取付け

- ・下地材と断熱材の複合板は、 $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向910以下とする。

③防水紙の取付け

- ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。

④外装材の取付け

- ・外装材は、 $\phi 5$ 以上 $\times L65$ 以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
- ・留付け間隔は、高さ方向は間隔935以下とし、幅方向は外装材の働き幅毎とする。

⑤内装材の取付け

- ・内装材は重張とし、下張材は $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上、上張材は $\phi 4.0$ 以上 $\times L40$ 以上の内装材固定用留付材を用いて留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向300以下とする。

※横胴縁

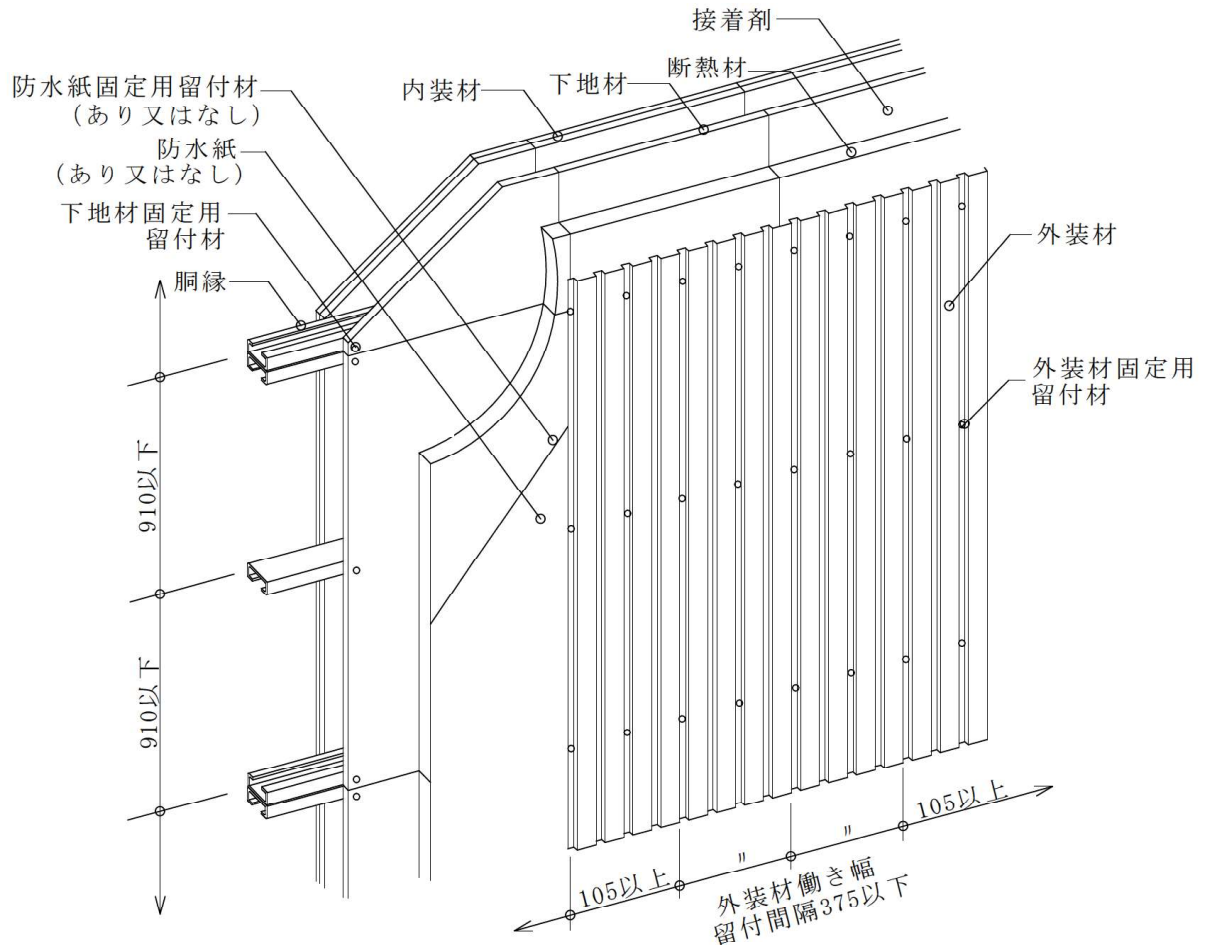
一般部： $\square-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$ 、下地材目地部： $\square\square-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$ 又は $\square-100 \times 100 \times 2.3$ を標準とし、水平方向の支点間距離が大きくなる場合、水平方向の支点間距離に応じて、横胴縁の寸法を大きくする等、構造計算により標準の寸法と比較し、十分な剛性を有することが確認されたものとする。

※注意事項

- ・本構造に使用される各留付け材は、構造説明図に記載される所定の留付け先に十分なかかり代が確保されるよう、留付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。
- ・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と開口部、床、屋根および軒裏等の取合い部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

2) 金属板（留付けビスが露出するもの）（内装材用下地材なし）

<施工図>



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

<施工手順>

①下地組

- ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は910以下とする。

②下地材及び断熱材の複合板の取付け

- ・下地材と断熱材の複合板は、 $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向910以下とする。

③防水紙の取付け

- ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。

④外装材の取付け

- ・外装材は、 $\phi 5$ 以上 $\times L65$ 以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
- ・留付け間隔は、高さ方向は間隔935以下とし、幅方向は外装材の働き幅あたり3本以上とする。

⑤内装材の取付け

- ・内装材は重張とし、下張材は $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上、上張材は $\phi 4.0$ 以上 $\times L40$ 以上の内装材固定用留付材を用いて留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向300以下とする。

※横胴縁

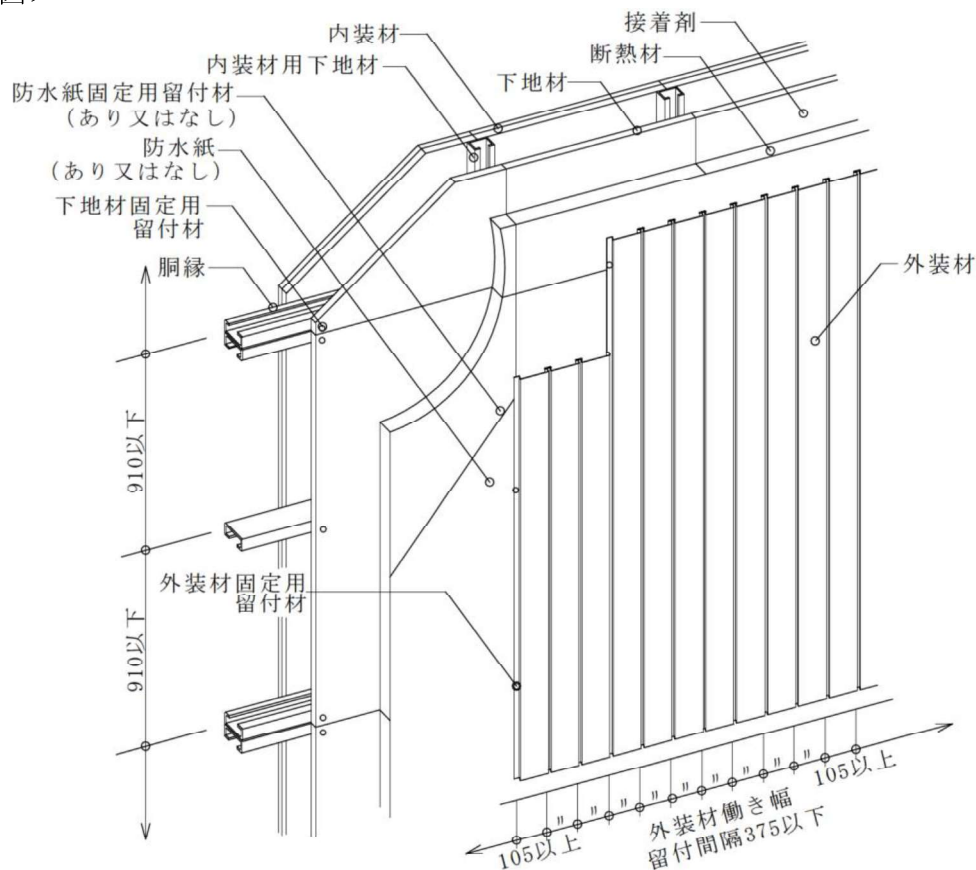
一般部： $\square-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$ 、下地材目地部： $\square\square-100 \times 50 \times 20 \times 2.3$ 又は $\square-100 \times 100 \times 2.3$ を標準とし、水平方向の支点間距離が大きくなる場合、水平方向の支点間距離に応じて、横胴縁の寸法を大きくする等、構造計算により標準の寸法と比較し、十分な剛性を有することが確認されたものとする。

※注意事項

- ・本構造に使用される各留付け材は、構造説明図に記載される所定の留付け先に十分なかかり代が確保されるよう、留付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。
- ・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と開口部、床、屋根および軒裏等の取合い部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

3) 金属板（留付けビスが露出しないもの）（内装材用下地材あり）

<施工図>



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

<施工手順>

①下地組

- ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は910以下とする。

②下地材及び断熱材の複合板の取付け

- ・下地材と断熱材の複合板は、 $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向910以下とする。

③防水紙の取付け

- ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。

④外装材の取付け

- ・外装材は、 $\phi 5$ 以上 $\times L65$ 以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
- ・留付け間隔は、高さ方向は間隔935以下とし、幅方向は外装材の働き幅毎とする。

⑤内装材用下地材の取付け

- ・内装材用下地材は、内装材用下地材固定用留付材を用いて、胴縁に対し縦方向に留付ける。

⑥内装材の取付け

- ・内装材は重張とし、下張材は $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上、上張材は $\phi 4.0$ 以上 $\times L40$ 以上の内装材固定用留付材を用いて留付ける。留付間隔は、高さ方向910以下、幅方向300以下とする。

※横胴縁

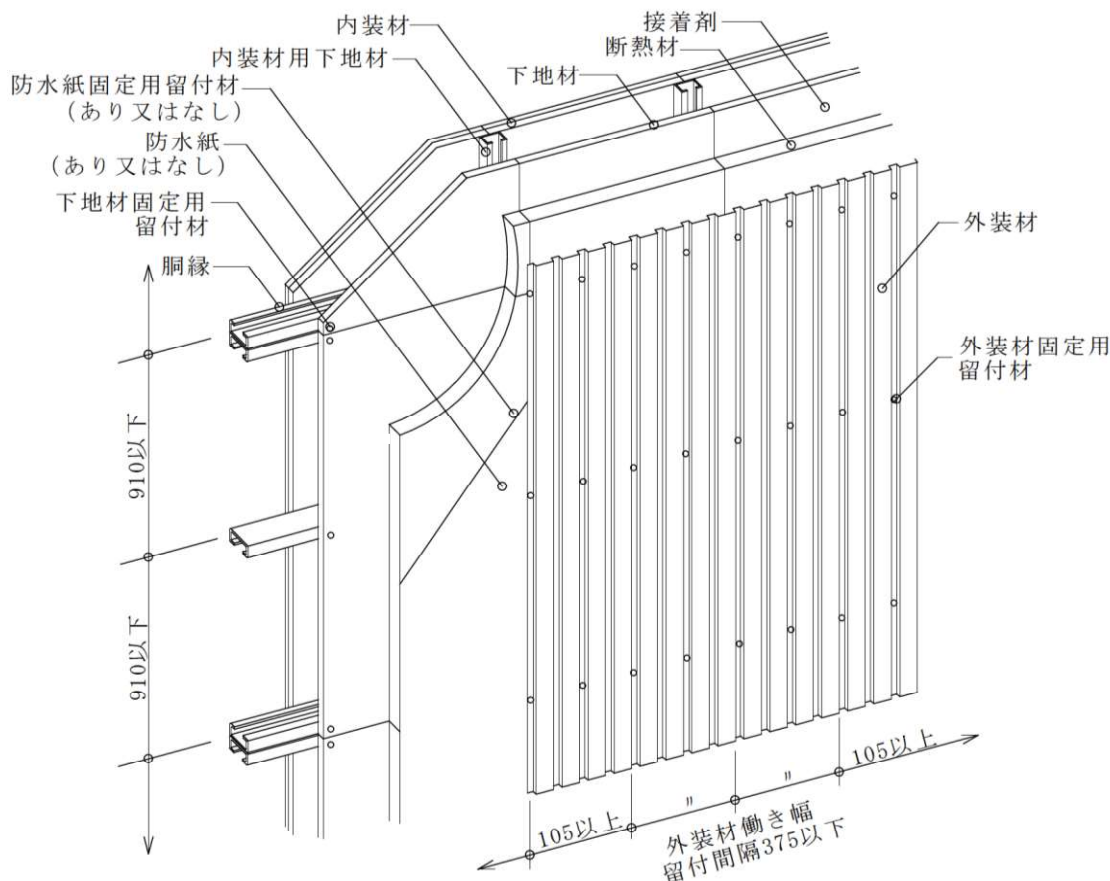
一般部：□-100 \times 50 \times 20 \times 2.3、下地材目地部：□□-100 \times 50 \times 20 \times 2.3 又は□-100 \times 100 \times 2.3を標準とし、水平方向の支点間距離が大きくなる場合、水平方向の支点間距離に応じて、横胴縁の寸法を大きくする等、構造計算により標準の寸法と比較し、十分な剛性を有することが確認されたものとする。

※注意事項

- ・本構造に使用される各留付け材は、構造説明図に記載される所定の留付け先に十分なかかり代が確保されるよう、留付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。
- ・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と開口部、床、屋根および軒裏等の取合い部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

4) 金属板（留付けビスが露出するもの）（内装材用下地材あり）

<施工図>



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

<施工手順>

①下地組

- ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は 910 以下とする。

②下地材及び断熱材の複合板の取付け

- ・下地材と断熱材の複合板は、 $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。留付間隔は、高さ方向 910 以下、幅方向 910 以下とする。

③防水紙の取付け

- ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。

④外装材の取付け

- ・外装材は、 $\phi 5$ 以上 $\times L65$ 以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
- ・留付け間隔は、高さ方向は間隔 935 以下とし、幅方向は外装材の働き幅あたり 3 本以上とする。

⑤内装材用下地材の取付け

- ・内装材用下地材は、内装材用下地材固定用留付材を用いて、胴縁に対し縦方向に留付ける。

⑥内装材の取付け

- ・内装材は重張とし、下張材は $\phi 3.5$ 以上 $\times L25$ 以上、上張材は $\phi 4.0$ 以上 $\times L40$ 以上の内装材固定用留付材を用いて留付ける。留付間隔は、高さ方向 910 以下、幅方向 300 以下とする。

※横胴縁

一般部：□-100 \times 50 \times 20 \times 2.3、下地材目地部：□□-100 \times 50 \times 20 \times 2.3 又は□-100 \times 100 \times 2.3 を標準とし、水平方向の支点間距離が大きくなる場合、水平方向の支点間距離に応じて、横胴縁の寸法を大きくする等、構造計算により標準の寸法と比較し、十分な剛性を有することが確認されたものとする。

※注意事項

- ・本構造に使用される各留付け材は、構造説明図に記載される所定の留付け先に十分なかかり代が確保されるよう、留付けている材料の寸法に応じた適切な長さで使用する。
- ・本仕様を施工するにあたっては、本仕様と開口部、床、屋根および軒裏等の取合い部分において、炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。